

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 24 日

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	吉竹弘行
研究課題	学長プロジェクト3「養蜂事業による地方空港活性化手法」及び「楽しい防災プロジェクトとしての防災ポールウォーキングの可能性」の研究				
研究キーワード	地方空港、養蜂事業、地球温暖化ガス削減、防災、ポールウォーキング	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	13. 気候変動に具体的な対策を	11. 住み続けられるまちづくりを	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	
<p>I. 「養蜂事業による地域空港活性化手法の研究」(Sustainable Honey Airport & Resilient Town 事業、略称 S-HART 事業)</p> <p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究は 2022 年度の学長プロジェクト 3 の一部として実施した。</p> <p>2022 年 3 月に須賀川市の伝衛門ハチミツを使用した UD メニュー開発のためのレシピ・コンテストを実施した。5 学部 11 グループの応募があったが、最優秀賞として選定されたメニューを、12 月に本学 University Dinning で販売を行った。</p> <p>8 月には国内外の都市型養蜂開発に関与する銀座ミツバチプロジェクト田中淳夫氏、萩・石見空港ハチミツ事業の推進者であった株式会社 ANA 総合研究所本橋春彦氏のオンライン講演を受けた。</p> <p>9 月には小職及び教員 1 名で学生 10 名を引率して現地訪問を行った。伝右衛門ハチミツ養蜂場他の視察と、須賀川創英館高校生、須賀川市、福島空港ビル及び福島県他と意見交換を行い、講演での学習と現地調査を踏まえ、11 月に関係者に対する視察報告会をオンライン実施した。この現地訪問を契機として、福島空港の敷地を所有する福島県から、空港敷地内での養蜂事業についての使用許可を得ることができた。</p> <p>また現地事業者である須賀川養蜂社及びグランシア社が、高校生との連携により「伝衛門ハチミツを使用したバスクチーズケーキ」を開発したが、この商品パッケージデザインコンセプトへ本学学生も提案を行ったほか、2023 年 2 月には福島空港での試食調査に、プロジェクトロゴを学生が作成するとともに、小職及び教員 1 名で学生 10 名を引率して参加した。この試食会を契機として、本学学生が中心となって、関係者全員対戦でのインスタグラムでの広報活動を開始することとなった。</p> <p>さらに、この開発商品の名称の一部である「La BeeNIR」については商標登録を申請している。</p> <p>このように、当初に目論んだ体制がほぼ完成できてきたため、今後、空港用地での養蜂事業者体制を確立するとともに、現地への旅行プログラム開発等の集客方法の検討を進め、空港活性化への貢献を図るとともに、今迄の経過を汎用的に活用できるための資料を取りまとめていく活動も進めていきたい。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>特になし</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>特になし</p> <p>【学会発表等】</p> <p>特になし</p> <p>3. 主な経費</p>					

学会参加費用及び現地出張費等と打合せ資料作成等に消耗品を使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

開発商品の名称の一部である「La BeeNIR」については商標登録を申請

II. 「防災ポールウォーキングの可能性の研究」

1. 研究成果の概要

学長プロジェクト3の「楽しい防災教育」の一環として、毎週ノルディックウォーキングの研修会を開催している一般社団法人市川スポーツクラブ国府台の協力を受け、市川市高齢者クラブ連合会に対して、高齢者の健康作りとともに、水害時の防災能力向上の教育プログラムを開発する事を目指して研究を行っている。

2022年4月及び7月に防災ノルディックウォークを実施したが、80歳以上を中心に30人近くの高齢者の参加があり、真夏の環境下でも、落伍者が発生しない形で教育の実施ができた。参加者の1回あたり歩幅が平均10%程度は大きくなった事を参加者自らが感じ取り、安定感も増えているとの回答が多くあった。

このように、高齢者が積極的に参加する姿勢を見せつつあり、当初のこの活動に参加させるという目論見は達成しつつある。

こうした活動状況について、2022年7月に公開講座で発表を行った。また12月の不動産学会のワークショップで報告を行うとともに、2023年1月には丸の内朝飯会での報告も行っている。

上述してきたように、高齢参加者を確保するという一定程度の成果を得ることができたため、来年度からは、こうした参加者を被験者として東京医科歯科大学等の協力も得て、健康面や身体面での効果や安全性についての具体的研究を進めていくことも検討したい。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

特になし

【著書・論文（査読なし）】

特になし

【学会発表等】

不動産学会のワークショップで報告

3. 主な経費

打合せ資料作成等の消耗品を使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特になし

(本文は2ページ以内にまとめること)